

# 船木振興会結成の経緯と 発足趣旨

## 1. 振興会結成の背景と動機

船木地区の中央を県道（北船木線）が、また北部をJR三江線が通っていることもあって、昭和40（1965）年代後半から50（1975）年代にかけて、ほとんどの農家が第2種兼業農家となり、近郊の三次市や吉田町に通勤するようになった。

このため、土曜・日曜の農業が主流となり、農機具の過剰投資や耕作放棄なども発生し始めた。そして、このまま放置しておけば農業が駄目になってしまうという危機感から、若者の間で農業についての話し合いが行われるようになった。

一方、昭和56（1981）年度には地域内にある小学校が他地域に統合移転する問題が生じた。

船木地域唯一の文化的教育施設である小学校の統合問題は、保護者のみならず地域住民全体の問題となり、地域の農業、生活、文化、福祉、教育をどのようにするかについて話し合いが活発に行われるようになった。

## 2. 発足についての合意形成の過程とその内容

船木地域には、若者を中心とした体育同好会〔昭和52（1977）年8月発足〕があり、スポーツを中心とした活動を行っていた。

小学校の統合移転問題や農業の振興については、体育同好会を中心とした若者達が行動しなければという責任感で、アンケート調査や話し合いを積極的に行い、地域住民のコンセンサスを得て、統合問題については円満な解決を見た。

このように中核的な役割を果たしてきた体育同好会であるが、農業に対する危機感や学校移転後における住民の生活問題など、地域振興を推進していくためには若者の力だけでは限界になってきた。そこで、これまでの体育同好会を発展的解消して、学校区と11行政区を網羅して地域住民が全員参加するコミュニティ集団を組織するに至った。

住民の連帯と協調を理念に置き、住民自治の確立を目指して発足したのが「船木振興会」である。



閉校前の船佐東小学校